



京都 YWCA

7
2014

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

震災から 3 年の福島を訪ねて

— 被災地に暮らす人びとの想いを聴く —

2011年3月11日に東日本を襲った大震災から、3年が経ちました。京都YWCAでは、6月6日から8日にかけて、震災後の仙台や福島を訪ねるツアーを実施しました。ここでは、被災地の現状の一部や、ツアーの中で出会った人びとの様々な思いについてお伝えします。

震災がもたらした被害の様々な形

一言で「被災地」と言っても、被害は様々です。仮設住宅に住む人の中にも、津波によって家を失った人もいれば、原発事故によって放射線量が高い家から避難を余儀なくされている人もいます。また、震災前と同じ家に住みながら、原発事故による放射能がもたらす健康被害を気にしている人もいれば、震災前と同じ日常生活を送ろうとする人もいます。

それぞれの人びとが語る「震災」は一様ではありません。3年経ってようやく当時のことを語れるようになった人もいる一方、仕事や住む場所をなくしてしまった人の中には、今でもその被災体験を乗り越えられない人もいます。



津波被害で住めなくなった
仙台市荒浜地区

福島で子育てをする人びとの葛藤

「事故前の福島は、子育てに適した場所でした」と話す福島市在住のお母さんは、原発事故以来、洗濯物を外に干せないそうです。市内にはまだまだ、放射線量の高い地点が残っています。しかしもはや被ばくを心配していない人も多く、自分と同じように今でも洗濯物を屋内に干している人にしか、放射能に対する心配事を語ることはできないそうです。また、事故によって制限されていますが、屋外での活動は本来子どもの発達に欠かせないものです。屋外でのびのびと子どもが遊べるようにと、原発事故の直後に母子で避難したものの、慣れない地域で家族と離れて暮らすストレスから、地元に戻ってきた人たちもいます。

事故が起きてしまったという状況の下、様々な葛藤を抱えながら生活せざるを得ない人びとは、目の前の子どもたちにとって今できる最善だと思える子育てをしていくしかありません。しかし心の中では、原発事故に対する責任を誰も負っていないことや、事故後の政府や自治体の対応に強い憤りを感じておられるようです。

震災から 3 年後の新たな問題

福島YWCAの方々に福島市内を案内していただきました。除染作業によって出てきた汚染土が土のうに詰められ、住宅の庭や駐車場にビニールシートに覆われてあちこちに置かれています。こうした汚染土がいつ回収されるのかも、次の行き場所がどこなのかも、地元住民には知らされません。仮設住宅の隣の場所が、ある日突然、汚染土の置き場になっていたという話もあります。

被災地に暮らす人びとは、3年という月日が経ってなお新たな問題に直面し続けています。そもそも事故のあった原発は、東京で使う電気を作るためのものなのに、福島の人びとが困難な生活を余儀なくされています。原発事故について考えるとき、私たち自身の暮らしが問い直されているのではないのでしょうか。



(堀部碧)

福島市中心部での汚染土埋め込み作業

京都 YWCA90 周年記念チャリティーコンサート『アストロリコ四重奏の夕べ』 初夏の宵、築百年のヴォーリス建築教会で圧倒的なタンゴ生演奏に感動

2013年に京都YWCA創立90周年を迎え、さまざまなイベントを実施してきましたが、その最終のイベントとして、5月30日に記念チャリティーコンサート「アストロリコ四重奏の夕べ」を京都御幸町教会で開催致しました。

「アルゼンチンタンゴ？ 生演奏を以前から聞きたかった」、「ヴォーリスの建てた教会で演奏されるって素敵ですね」など多くの方々がコンサートに興味を持ってくださって、チケットは早い時点で完売しました。演奏当日は真夏のような暑い日でしたが、熱いアルゼンチンタンゴに酔い、パワーを貰ったひと時でした。

「チャリティーコンサートをお願いできませんか？」と京都御幸町教会に毎週通っておられるアストロリコのリーダー門奈さんにお願いをしました。趣旨を理解してくださり快く受けて頂き、この教会で演奏会をさせて頂くことになりました。京都御幸町教会は京都YWCAの「サマリア館」を設計したウィリアム・メレル・ヴォーリスによる教会建

築として現存する最古の教会とされています。京都市指定文化財に認定されており、直前の5月25日に献堂百周年記念会が実施されたばかりでした。

「大変感動的な音楽でした。4人の楽器（バンドネオン、バイオリン、コントラバス、ピアノ）がのびやかに演奏される姿がとても印象に残りました。時に激しくぶつかりながらも立てるべき楽器を守り立てる、その変幻自在な演奏は、とても4人で奏でているとは思えないほど圧倒的な力を持っていました。4つの楽器がわき起こす竜巻に吸い込まれていくような思いをしながら聴き入りました」といった感動のメールを幾つも頂きました。

アストロリコの皆さま、京都御幸町教会の牧師、役員、教会員の皆さまの大きなお助けにより、手作りのコンサートを執り行うことが出来ましたことを、またご来場者、ご協力頂きました方々全てに心から感謝申し上げます。

(宮武美知子)

📖 オススメです！

「安保条約の成立 —吉田外交と天皇外交—

豊下 櫛彦 岩波新書



1952年に結ばれた日米安保条約が、どういう経緯で日本にとって「片務的」で不平等な形で結ばれたのか、丁寧な史料分析により新たな視点を提供し、集団的自衛権の問題を考える上でも示唆に満ちています。

当初日本は敗戦国でしたが、朝鮮戦争の影響からアメリカにとって日本の地政学的意味が高まったことにより、交渉は日本にとって有利な形で進められるはずでした。しかし最終的に結ばれたものはアメリカにとって有利な、日本国内の好きな場所に日本の負担で基地を提供するという条約。それも日本が米軍基地駐留を望み、それをアメリカが承諾したという形がとられます。

このような条約となった要因に、筆者は、新憲法（1947年施行）の象徴天皇制下での天皇の政治行為の影響を指摘します。背景には、国内外で社会主義勢力が台頭する戦後の情勢下、アメリカが優勢であり続けなければ天皇制が崩壊するという危機感がありました。私達が望む未来とは一体何なのかの問いを鋭く突きつける一冊です。

(編集部)

「オムロンデー」にお菓子づくりボランティア

5月9日、うららかふえ運営委員会お菓子づくりチームは、オムロンファイナンス株式会社の19名（うち男性5名）のボランティアと一緒にレンジャークッキー作りをしました。



オムロン株式会社では、創業記念日である5月10日を「オムロンデー」として、世界中のオムロングループ全従業員が就業時間内にボランティア活動をする取り組みを1995年から毎年実施されています。

うららかふえ運営委員会のお菓子づくりチームメンバーの指導のもと、4班に分かれて生地作りからクッキーの袋詰めまでをしていただきました。会社では絶対見られないエプロンと三角巾姿で、お菓子づくりが初めての方も楽しみながら作業され、出来上がり品は会社で販売し、売上に貢献して下さいました。また、焼き時間を使ってティータイムを設け、交流を深めました。

京都を代表する企業である「オムロン」の皆さんの今回のような社会貢献活動をきっかけに、今後、京都YWCAとの良き関係づくりにつながっていくことを期待します。

(河野伴子)

シリーズ ～京都 YWCA 多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり～

ふれあいの居場所「うららかふえ」

ふれあいの居場所事業 うららかふえ運営委員会

「うららかふえ」は今年9月にサマリア館にオープン予定の京都 YWCA のカフェです。同じ9月に開始されるサービス付き高齢者向け住宅「サラーム」で生活する方々や、2015年4月に開設予定の自立援助ホームの若い女性たち、会館に住む留学生だけでなく、YWCA に集まる人たちや地域の方々が出会い、交流し協働できる具体的な場の提供をめざしています。ランチやお菓子の提供をその大切なツールとして位置づけています。

サマリア館は、1905年海外伝道のため来日したウィリアム・メレル・ヴォーリズが設計した多くの建築物のひとつで、漆喰と木造の暖かい雰囲気のある建物です。改修工事を行い新しいキッチンを設けましたが、元の趣を残したものとなっています。集う方々がほっとできる「うららか」な「かふえ」となるようにとの願いから、「うららかふえ」と名付けました。

火曜から土曜まで、午前11時から午後4時まで、委託もありますが、基本的に京都 YWCA の会員が担っていきます。

人々の交差点となるふれあい空間に

高齢者や自立援助ホームの女性たち、留学生たちが、最初は「お客さん」であっても、やがてはそれぞれの思いに沿ってこのカフェで活動できるような、そういう場になればと考えています。カフェからも、様々な人が集まりやすく、一人ひとりがエンパワーされるような仕掛けを考えていきます。

約3年前から、月2回のスリフトショップの開催に合わせて、会館でカフェが開かれてきました。いずれは、誰が来ても居場所となるようなカフェにしたいという願いを持ちながら活動してきましたが、それが実現できることになったわけです。

これまで培ってきたものだけではまだまだ不十分ですが、試行錯誤を重ねながら、京都 YWCAらしいカフェにしていきたいと思っています。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

Xバンドレーダー建設予定地訪問

現在、日本海に面した京丹後市の経ヶ岬に米軍基地が建設され、Xバンドレーダー（弾道ミサイル防衛システムとして目標の探査、追跡、迎撃ミサイルの誘導に使用）が配備されるようとしています。本来、市民に知らされるべきことが少しもきちんと報道されない日本社会で、この問題も然りです。

いつ工事が着工されるかという状況の中、5月17日（土）車3台10人で現地を訪問してきました。案内して下さったのは、「米軍基地建設を憂う宇川有志の会」の事務局長、永井友昭さんです。

宇川地区の清涼山九品寺の山道に入って行くと正面にお寺、左手には自衛隊の分屯基地があります。なんと参道は分屯基地へ至る経路でもあります。レーダーの配備予定地はそのお寺の向こう、断崖絶壁の上です。この計画は2013年2月の日米首脳会談で合意され、9月に京都府知事、京丹後市長が協力を表明したものです。4回開かれた住民説明会では、住民の安全・安心に関わる納得のいく説明は一切なかったそうです。しかし、土地の確保は着々と進み、同年12月には地権者一名分を残してすべての賃借契約が交わされました。かなり強引に破格の借地料に地域振興予算がつくと、過疎地に誰も望まない危険なもの押し付ける場合の常套手段が使われたそうです。

さまざまな課題を置き去りに工事を着工

Xバンドレーダーそのものの電磁波・騒音・排水などの問

題、米軍の軍人・軍属が160人ほど駐留する治外法権の米軍基地ができることへの不安、また、現地は絶滅危惧種のはやぶさの生息地で、地質学的にも貴重なジオパークでもあるという環境基準の問題、それらのことが全て置き去りにされています。

そしてこの原稿を書いている段階で、とうとう工事が着工されてしまいました。永井さんもおっしゃっていましたが、工事を阻止することはできないのでしょうか。でも、京都府民の安全を守る立場にある府知事の、ただただ、国と米軍に追従するだけという姿勢を、看過してはならないのではないのでしょうか。（神門佐千子）



フェンスの向こう側にレーダーが配備される予定

今後のプログラム

子どもの居場所 2014

「夏休みキッズデアウト in ガジュマルの樹」

■日 時：① 2014年8月18日(月)・② 19日(火)
それぞれ 10:00～17:00

③ 2014年8月20日(水)～22日(金)
2泊3日

■内 容：①②お出かけ、夏休みの宿題、室内デイプログラム
(多文化理解プログラム、平和プログラム) など
③キャンプ(京都復活教会北小松研修所)
いずれも室町教会(室町通丸太町上ル)に集合します。
内容の詳細や持ち物などは後日お知らせします。

■対 象：小学1～6年生

■参加費：①②ともに参加 3,000円、
いずれか参加 2,000円
③ 13,000円
いずれもおやつ付き

■定 員：15名 ※先着順
申込み者多数の場合はキャンセル待ちとなります。



サービス付き高齢者向け住宅 「京都 YWCA サラーム」入居者募集

京都 YWCA サラームは60歳以上の女性(自立から介護認定を受けている方まで)を対象に、9月からのご入居者を募集しています。基本サービス(24時間緊急対応、安否確認、生活相談)やフロントサービス(宅配物取次、来訪者への受付案内)の他、ご希望の方には昼食の提供もいたします。本住宅は京都御所に近い京都 YWCA の本館(8戸)にあります。ご入居者の方は安全・安心な住まいで自由な生活を送りながら、京都 YWCA の様々な多世代・多文化プログラムに参加していただけます。

施設詳細はウェブサイト <https://www.satsuki-jutaku.jp/> の京都府施設リストからご覧いただけます。入居についての詳細は事務所(075-431-0351)までお問い合わせください。

ご寄付ありがとうございました。

2014年4月1日から2014年5月31日
寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

土田巨、高橋正子

各指定寄付

*多世代・多文化ふれあいコミュニティ事業 にむけた改修募金

文田則子、東野繁子、河野伴子、池上信子、
吉岡恵津子、一般財団法人久保育会、
西森頼子、安野洋子、上田理恵子、
宮武美知子、浅野献一、平野富希、梶美津保、
別所加恵、森律子、篠田茜、上村愈巳子、
匿名2名
イースター礼拝席上献金

*90周年みらい募金

運営委員会有志

*福島プロジェクト

木戸さやか、イースター集会カンパ、
イースター礼拝献金

*親・子育て支援委員会

木戸さやか

*APT

森律子、篠田茜、孫美幸、
マーサ・メンセンディーク、上原有美、
本田次男

*国際委員会

小寺敬子、池上信子、宮武美知子、
小寺敬子(洛楽)

*平和委員会

木戸さやか

*うららかふえ運営委員会

篠田茜

*自立援助ホーム カルーナ

岡本圭司、伊原千晶、井上摩耶子、館山英夫、
佐野千枝子、山本知恵、山本智也、実生律子、
篠田茜、竹之下雅代、田中君枝、福嶋節子、
平尾剛之、別所加恵、木戸さやか、上村愈巳子

*賛助費

森律子、清水義、寺田有古、中川愛子、
伊藤真代、小嶋清見



多世代・多文化ふれあいコミュニティ事業にむけた改修会費 にご協力いただいた方々

2014年2月1日から2014年3月31日

北村保子、弘中奈都子、神岡茂子、
荒垣加津子、原田みな美、平野富希、
木戸さやか、別所加恵、篠田茜、
志賀朱美、宮川卓也

5・6月/理事会報告

<今後の予定>

- スウォン YWCA とのユース PEACE プログラム：8/13-18 @韓国スウォン
- 留学生援助資金からの助成で留学生を「ひろしまを考える旅」に派遣する。
- 夏休み「ガジュマルの樹」(キッズデアウト) 実施(8/18-22) *ボランティア募集中。
- 「カルーナ」(自立援助ホーム) 後援会会員募集開始。
- 「サラーム」(サービス付き高齢者向け住宅) 入居者募集開始。(随時個別説明)
*「内覧会」：8/29(金)、30(土) 10:00-15:00
- 「改修会館オープンハウス」：9/6(土) 13:00-16:00
- 「うららかふえ」オープン：9/9(火)
- 引き続き、「新事業に向けての会館改修工事」寄付募集

<報告>

- 90周年記念コンサート「アストロリコ四重奏の夕べ」170名の参加で無事終了(5/30@京都御幸町教会)
- 声明文及び申し入れ書「京都府京丹後市における「Xバンドリーダー」の設置計画の中止・撤回を求めます」を京都府知事、京丹後市長、防衛省宛に送付
- 声明文「集団的自衛権」行使容認の閣議決定に強く反対し抗議します」を内閣総理大臣および、公明党代表へ送付
- 2013年度決算処理完了。
- 会館改修工事は、8月末終了予定

KYOTO YWCA No.520

2014年7月号(7月1日発行)

発行人 上村愈巳子

発行所 一般財団法人京都 YWCA
京都市上京区室町通水上ル

電話 (075)431-0351 FAX (075)431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

URL http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (一財)京都 YWCA

定 価 50円